

第2号では、関西支部の主要行事の「研究会」と本部主催の「年次学術大会」を特集します。With コロナ社会での「環境問題」、「DX改革」、「働き方改革」・・・などの取り組みを中心にをご紹介します。

1. 関西支部開催の研究会のトピックス

コロナ禍で開催場所探しに苦労していますが、6月、7月は、以前利用していた中央電気倶楽部(写真)に里帰りしてみました。



研究会開催風景

①「航空機の安全対策」

(元海上保安官の南晴雄氏ご講演から)

パイロットのトレーニングには、ヒューマンエラーの本質やSHELLモデル(人間の心理学)が取り入れられている。「失敗から学ぶ」ことが重要である。

②「洋上風力発電の開発」

(日立造船(株)の東谷修氏ご講演から)

脱炭素社会の本命として日本で期待されている洋上風力発電は水深の浅い海に向けた「着床式」が先行しているが、大量導入可能な「浮体式」も、経済産業省/NEDOの実証研究で実用化が進んでいる(写真)。



③「2025 大阪・関西万博」

(近畿経済産業局の坂野聰氏ご講演から)

あと3年半に迫った「万博」の最新の進捗状況と、コンセプトの「未来社会の実験場」、「地域創生・活性化」を紹介いただいた(写真)。



万博会場全景
(日本国際博覧会協会HP)

関西支部活動をととして貢献していきたい。

2. 本部主催の年次学術大会の速報

研究・イノベーション学会の(第36回)年次学術大会が、今年も10月30~31日に開催されました。コロナ禍で昨年に続きオンライン開催(写真)となり、遠方からも多くの会員の参加がありました。

関西支部として、一般講演のホット

研究・イノベーション学会 第36回年次学術大会 [10月30日~31日/オンライン開催]	
A 会場	発表時間
	10分経過(発表終了2分前) = 1鈴
	12分経過(研究発表終了) = 2鈴
	17分経過(質疑応答終了) = 3鈴

イシューで『With コロナの経済回復に地域資源の活用で挑戦する』を企画・募集し、全国から応募があり、2日間にわたり15件の発表と討議を行いました。詳細は、「年次学術大会講演要旨集」および終了後、関西支部で発刊予定の冊子「要旨集抜粋」をご覧ください。

なお、ホットイシュー準備委員会では、関西支部からの発表者に対して申込書、数ページの発表論文とスライド作成の支援、および1時間/件のZoom発表練習を行った。また、自治体、大学、研究所、企業から多岐の内容の発表があった。以下、一部をご紹介します。

① 滋賀県湖南市からは、自然エネルギーを活用した「市民共同発電所(写真)」を中心にした地域循環共生圏やSDGsへの新しい取り組みの紹介があった。自治体が主体となって社会サービス事業を提供するドイツの「シュタットベルケ(Stadtwerke)構想」の日本版として期待される。



コナン市民共同発電所
(湖南市HP)

② 中小企業経営者から、DX改革では、山田技研(株)の「無線伝送システムによる山間地域の防災」、チトセ工業(株)の「プレス機のリアルタイム遠隔監視」、(株)木幡計器製作所の「IoT化圧力計」等があった。

③ 働き方改革についても、梅南鋼材(株)の「バブル崩壊期やコロナ禍で会社を支えたのは、入社1~2年目の若手社員同士の社内教育だった」が注目された。

3. 研究会での参加者の声(感想文)紹介

①第 160 回研究会(2021 年 6 月 23 日)

「航空機運用の安全対策の本質は、“許容できる危険”であり、“ヒューマンエラーは必ず起こる”、“見晴らしの良いところでヘリコプター事故は起きた”は、肝に命じたい。」

「大阪ガスのベンチャー精神によるオープンイノベーションは、従来の自前主義と比べて、特許とノウハウの扱い、業績評価が重要と思う。」

「オンライン形式ではなく、久しぶりに講師から直接お話を伺えて有難かった。」

②第 161 回研究会(2021 年 7 月 21 日)

「脱炭素技術の取り組みを、日立造船の洋上風力発電と中田名誉教授の製品ライフサイクル評価から、電源構成まで含めた総合的なエネルギー対策の必要性を感じた。」

「関西企業が、新たな技術・製品開発に取り組んでおられるのをお聞きし、関西は、未だ活力のある地域、日本をリードしていけると思いました。」

「支部ニュースは、紙面と HP から研究会活動、学会活動を知ることができ、特に新型コロナウイルス禍にも会員間の情報ツールとして有効です。」

「今後、若手研究者、学生にも参加しやすいようにオンライン併用や土曜日開催もご検討下さい。」

③第 162 回研究会(2021 年 9 月 28 日)

「“廃プラスチック”という時流に乗ったテーマで、事務系の私でも、発表があった開発技術は、もっと社会に認識されればと思いました。」

「私たちの生活の中で、使い勝手の良いプラスチックが海洋問題を起こし、資源循環戦略の中で、廃プラのリサイクル技術の最近の進歩が良く分かりました。」

申込者は全員参加、学生などの 3 名の飛び入り追加参加もあり、46 名の大盛会だった(写真)。



④第 164 回研究会(2021 年 11 月 5 日)

「関西万博を起爆剤として、関西地域をどのように盛り上げていくか、地域創生のスタート地としての取り組

みが分かった。」

「1970 年万博と同様、新ビジネスの創出に期待。」

4. 会員からの季節便り—俳句・川柳

「自転車で 行きつ戻りつ 赤とんぼ」

「研究会 名よりも先に 顔(ひたい) 拝見」

「ライン際 一喜一憂 オフィシャルビュー」

筆者(谷口邦彦)



5. 関西支部のニュースと行事案内

第 34 回関西支部総会(8 月 30 日、オンライン開催)には 56 名様(会員数の 59%)の多数のご参加を頂き、コロナ禍での歴史に残る盛会となり、厚く御礼申し上げます。ご期待にそう活動を続けて参る所存です(大槻真一関西支部長)。

12 月ごろ、「年次学術大会要旨集抜粋」を発行予定です。

6. 編集後記

創刊号に対して多くの方から感想、激励のメールをいただき有難うございました。関西支部の HP にも掲載させていただきました。第 2 号は「れんけい」の方向を決める大事な号であり、悩ましい日々が続いていましたが、「会員と学会、会員間、産学官の“連携”を目指す」を基本方針として、関西支部に関連したニュースを取り上げていくことを継続して行けばよいことを確認しました。今後も皆様からのご寄稿、ご意見・ご希望などを励みにして、「れんけい」を育てていきたいと思っています。(西原)

※「読者の声」窓口：

kansaiinobe.koike@gmail.com

【発行】研究・イノベーション学会関西支部
<https://jsrpim-k.jp>